

# みくに



〈今年もよろしくお願ひします！〉

## 2025年 標語聖句

### [希望の計画]

あなたたちのために立てた計画・・・  
それは平和の計画であって、災いの計画ではない。  
将来と希望を与えるものである。

エレミヤ書 29章11節

社会福祉法人 みくに園

障害者支援施設 みくに成人寮

TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902番地1

HP: <http://www.teshimamikunien.com>

# 島で育む支援

主任 柴田 裕紀子

島の自然に囲まれた環境で、障害を持つ方々の生活を支える仕事には特別な意味があります。島の美しい四季を感じられるのは、この仕事の大きな魅力の一つです。散歩中、海岸沿いで潮風を感じる瞬間は心を落ち着けるだけでなく、利用者さんと自然を共有する貴重な時間でもあります。また、島の小さなお店に出かけ、地元の人々と交流を持つことで、利用者さんが社会とのつながりを実感する場面も見られます。お店の方の温かい挨拶や、地域のみなさんが気軽に声をかけてくださる姿は、利用者さんだけでなく職員にとっても心が温まります。こうした日常の小さな交流が離島での暮らしを支えてくれています。

さらに、新鮮な地元の食材を使った料理や島の文化に触れることは、利用者さんの生活に彩りを与えるだけでなく、私たち職員にとっても大きな学びと励みになっています。

一方で、障害者支援施設における人手不足は大きな課題となっています。この問題は、利用者さんの安全や生活の質に影響を与えるだけでなく、職員にも大きな負担がかかります。特に島では、医療や福祉サービスの制限、交通手段の限界、人材確保の難しさなど、特有の問題が現場の悩みの種となっています。これらの課題に対応するためには、柔軟な勤務体制の導入や、定期的な研修を通じたスキルの向上、メンタルヘルスケアの充実が重要だと感じています。

離島での障害者支援には多くの課題がありますが、それでも地域ならではの温かいつながりや、この島だからこそできる支援を模索しながら、利用者さんと共に成長していきたいと思えます。

今年も利用者さんが安心して笑顔で暮らせる環境を目指し、島の特性を活かした新たな取り組みを続けていきます。どうぞよろしく願いいたします。

# 施設内研修

## 「～豊島の救急搬送～」

理事長 山田 久美

昨年の秋、みくに園の利用者さんを救急艇で高松の病院に搬送する事態が立て続けに起き、離島に立地する施設として医療の問題に直面した。

みくに園がある豊島では高齢化が進み、近年ドクターヘリによって救急搬送される人が増加している。ドクターヘリの運航により、豊島の救急は「患者を運び出す支援」から「患者を早急に医師に引き継ぐ支援」へと変化しているが、命を繋ぐ救急医療体制の整備は、島全体の緊急課題でもある。

先日、豊島公民館で『島民のそばに高度医療を ～変わる豊島での救急対応～』と題して、島民を対象とした学習会が開催された。ドクターヘリの要請場面やドクターヘリを呼ぶ理由になりやすい脳卒中の診療について、高松から脳神経外科の医師を招いての学習会であった。当園の看護師も参加し、救急搬送の知識や訓練の必要性を痛感したと報告があった。

この学習会をきっかけとして、みくに園でも職員を対象に救急搬送の施設内研修を行った。利用者さんの命を守るために緊急時に適切に対処できる知識を得ること、そして離島の施設で働く職員達の心理的負担の軽減の一助になることが研修の目的であった。講師は、みくに園の利用者さんの救急搬送を実際に担ってくださり、利用者さんや職員達とのかかわりが深い、小豆地区消防本部消防防災課主幹の三好謙一氏にお願いした。

講義では終始みくに園の実情に寄り添い、緊急時の通報の必要性やその方法、口頭指導による応急処置の実施方法、救急資器材の紹介、ドクターヘリの要請の流れ等を実際の映像を基にして具体的にご指導くださった。時間との闘いの中で、諦めずに一人の命を守り抜く努力をされている三好氏の言葉には説得力があり、使命感の強さと真摯に仕事に向き合う熱意に溢れていた。そして、医療や災害の現場で私たちの命を繋いでくださる方々に深く感謝する時間でもあった。

みくに園の設立以来、緊急時には多くの方が助けてくださり、今日まで施設を運営することができた。これからも豊島の地域の方々との繋がりを大切にして、地域医療に貢献できる施設でありたい。



## from みくにキッチン

### 新しい陰の立役者

厨房主任 近本 春陽

5年前、長年お世話になっていた卸問屋が閉店しました。当時、乾物や調味料、冷凍食品、乳製品に至るまで、幅広い品をお願いしていた私たちにとって卸問屋はまさに園の食事を支える陰の立役者でした。その突然の閉店に、どうしたものかと考えを巡らせていた私たちに、卸問屋の主人から連絡があり、新しい業者を紹介してくださいました。その名は「天満屋食料品店」。

名前の通り、食料品店というだけあって、先の間屋さんにも劣らない品揃え。ただし、個人商店であるため、他の業者と比べるとどうしても価格は割高になるとのことでした。それでも、朝一番でみくに船が着く高松港に荷物を届けてくれる業者は貴重で、私たちは藁をも掴む思いで契約をお願いしました。

あれから時が流れ、厨房も時代の移り変わりに合わせて形態をシフトチェンジしてきました。少人数で経験年数が浅くても一定水準の食事を提供できる「SOMP Oケア」との新しい提携により、仕組みを整えることができました。その一方で、天満屋食料品店さんに食材を依頼する機会は徐々に減少していきました。

しかし、厨房の危機を救っていただいた恩を忘れることはできません。何か恩返しができないかと考えていた時、ふと最初の契約時に店主がおっしゃった言葉を思い出しました。「うちは八百屋が本業」。そうだ、毎日フルーツを提供することでお互いにとってプラスになるのではないかと思い立ちました。すぐに店主に相談すると、二つ返事で快諾いただき、毎日旬の果物をお任せで届けていただくことになりました。

さすが本業というだけあり、天満屋食料品店さんは一年を通じてさまざまな果物を



を提供して下さいます。「うちの果物は高松の百貨店にも卸しているんだ」と自信满满に語る店主。しかしながら、個人商店が市場で果物を入手するのは簡単ではありません。昨今の異常気象や大手スーパーとの競争の中、大変なご苦労をされながらもみくに園の利用者さんのために旬の果物を毎日納品して下さっています。その果物は、カットするだけで、夕食に彩りを添え、利用者の方々に喜ばれています。

天満屋食料品店さんセレクトの果物は、毎日届くまで何が入っているのかわかりません。朝一番に届く秘密の箱を開けるのが、今では、忙しい厨房のちょっとした楽しみとなっています。

# みくにクリスマス会

12月12日、クリスマス会を開催しました。今年度も、利用者のみなさん、職員、そして香川豊島教会の牧師ご夫妻とともに、心温まる時間を共有することができました。牧師によるクリスマスメッセージに耳を傾け、讃美歌を歌いながらイエス・キリストの誕生に想いを馳せました。厳かで静かな雰囲気の中、それぞれが感謝と祈りのひとときを持つことができました。

その後の食事会では、厨房スタッフが心を込めて作ったクリスマス料理がテーブルを彩り、華やかなメニューに利用者さんから歓声が上がりました。祝会では、クリスマスソングをみんなで歌い、楽器を演奏して、音楽の楽しさを分かち合いました。また、ゲーム大会では賞品を手にした利用者さんの笑顔が輝き、思い出に残る時間となりました。

新しい年も、利用者のみなさんとともに、感謝の気持ちを大切にしながら、豊かで実りある時間を重ねていけるよう努めます。  
〈高橋 記〉



〈クリスマス料理〉



〈ゲーム大会〉



〈楽器演奏〉



〈クリスマス礼拝〉



〈クリスマス料理〉



〈ゲーム大会〉



〈楽器演奏〉

## 特別なコラボレーション

クリスマスの日、みくに園とAカフェが手を組み、心温まる特別なイベントが開催されました。Aカフェは、みくに園の向かいにある黄色いトレーラーハウスのカフェで、株式会社アミューズさんが経営しています。これまで多くの利用者さんたちが訪れ、本格的なコーヒーを楽しんできましたが、現在はリニューアルのため春まで休業中です。

そんな中、カフェのスタッフの方たちは、幸せそうにコーヒーを飲む利用者さんの姿に心を動かされ、今回のみくに園でのコラボイベントを提案してくださいました。

当日は、香り豊かなコーヒーに加え、爽やかなレモンソーダや地元豊島産の米粉を使ったシフォンケーキなどが用意されました。

利用者さんにとって日常とは少し違う特別なひとときとなりました。

〈高橋 記〉



### \* 表紙の年間標語聖句について \*

私たちの人生には、さまざまな試練の中で苦しんだり悲しんだりすることがたくさんあります。

しかし、神様は私たちに「将来と希望を与える」と言われています。私たちの将来が希望に満ち溢れていることを約束する言葉です。

私たちの思いをはるかに超えたところに神様の計画があり、私たちの未来を照らし、勇気と希望を与えてくれます。

今春、みくに園は設立41年目を迎えます。どんな時も、神様が与えてくださる将来を楽しみにして歩んでいきたいと思えます。

### \* 行事 \*

- 1月16日 高齢者棟火災想定避難訓練
- 1月27日 一般棟火災想定避難訓練
- 1月29日 バイキング給食
- 2月 2日 節分(豆まき・恵方巻)
- 2月14日~28日 高松短期大学実習生受け入れ
- 2月14日 バレンタインデー
- 3月 3日 ひな祭り
- 4月 お花見

### 編集後記

明けましておめでとうございます。気持ちも新たに2025年がスタートしました。

まだまだ寒い日が続きますが、みくに園の花壇には保護者の方からお送りいただいた水仙が芽を出し、ふくらみ始めています。さまざまな種類の水仙が咲く日が待ち遠しいです。

新しい年も、皆様の健康と幸せをお祈りいたします。

本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

〈松下 記〉

\* みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail: kgk03317@nifty.com

FAX: 0879-68-3920

みくにだより編集部：(164号 2025年1月発行)